

第478回 番組審議会

1. 日 時 平成24年9月18日(火) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 11名

出席委員 7名

委員 長 清野 雅子

委員 望月 善次

委員 池田 克典

委員 吉江 信博

委員 鈴木 正之

委員 遠藤 雅也

委員 國分 正人

欠席委員 4名

委員 福田 泰司

委員 坂本 修

委員 柴田 和子

委員 平 英一

社側出席者

檜崎 憲二 (代表取締役社長)

矢後 勝洋 (特別顧問)

山口 英二 (常務取締役)

淵沢 行則 (取締役報道制作局長)

桑島 広実 (制作部副部長)

事務局

遠藤 隆 (編成技術局長)

畠 義真 (編成技術局次長)

平山 亜希子 (編成技術局編成部主任)

4. 議 題

1. 8月19日(日) 14:00～14:55

ダイドードリンコスペシャル

「ぶつけろ、魂!力の限り!!～気仙町けんか七夕祭り～」

2. その他

5. 資料

資料として以下のものを配布

- ・ 視聴者からのご意見

6. 意見

委員側意見

○構成が素晴らしい。コマーシャルとマッチングした番組はこれ以上ないと思うぐらい、CM も効果を高めていた。改めて津波の恐ろしさというか、惜しい風景がなくなったなという感覚で、冒頭からぐっと引き込まれた。

○吉村作治さんの前後のナレーションが必要なのかと思った。作り手の意図が十分に伝わったので、最後のコメントはあらためて言葉にする必要があるのかと思った。

○映像のストックにすごく意味がある。懐かしい街並みと、現在の更地との対比を見せられると失ったものの大きさや、津波の破壊力と脅威をまざまざと見せられた。

○けんかの山車にカメラが載せられなかったのかと考えた。おそらくダメなのだと思うが、ぶつかる衝撃と音声を知りたかった。

○亡くなった熊谷さんは主人公の1人で、アクシデントだったと思うが、よく1時間におさまった。何回見ても、こどもや奥さんが出るあたりは涙が出てしまった。

○連絡会の話し合いの部分で、会の話し合いも、BGM のナレーションも聞き取りにくかった。

○祭りの復活は街の復興に相通ずるものがあり、さらに人間を育てるといふ祭りの力が発揮されるところがよく出ていた。

○平成の映像は平常時のけんかを説明する映像だったと思うが、昭和59年の映像のほう、町並みのほうは意味がわかるが、けんかのほうがあまり意味が感じられなかった。材料が足りなかったのか。

○画面表記では「2011, 3, 11」と記号として使ったのだとおもうが、他はすべて元号だった。元号なら原稿で統一すべき。

○故郷を離れた人があってよかった。「祭りがあると故郷へ帰る」ということばに単なる風習とかではなく、生きがいなんだということが伝わった。

テレビ岩手側意見

○番組はダイドードリンコ社の企画で全国の祭りを応援し地域の活性化に寄与したいということで、主には地元のテレビ局にまつりの番組を作らせていて、番組制作局同士で素材を交換して祭りの内容を広めるのに寄与している。

○他地域のけんか祭りとの比較はとくにしていない。今回は被災地のまつりということでの紹介。

○震災後、翌年ほんとうにまつりをやるのかははっきりしないなかで取材がはじまり、もしかしたら祭りが開催しないかもしれないけれど番組を作らないといけないという状態だった。

○山車の上にカメラ載せるお願いをすると、2台しかない山車にマスコミのカメラが殺到するのではないかと思い、祭りの当事者に迷惑をかけるので自重した。

○昭和59年の映像について、従来の祭りや地域性を紹介するためには足りなかったので平成の映像に加えて使った。

○「2011. 3. 11」というのは、記号として使った。判断については周りの意見を聞けばよかった。

○歌詞入りの歌はエンディングに使いたくて決めていたが、それを急に使ったら変かなと思ひ、同じアーティストの歌入りのところを前につかった。

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特記事項はないが、関連部署に議事録を配布するなど関係者に審議の内容を伝えた。

8. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

- ・自社制作番組「あなたと歩むテレビ岩手」

平成24年9月26日(火) (午前11時45分～11時52分放送) で、審議の概要を放送。

- ・支社・支局に議事録を設置
- ・当社のインターネットのホームページで議事録を公開